

カメの手術

飼育展示担当（獣医師） 高橋 広志



今年の秋ごろから、1匹のインドホシガメがほとんどエサを食べなくなって、どんどんヤセ細ってきました。レントゲンを撮ってみると大きな卵が6個も体内にあります。この卵が食欲不振の原因かははっきりしませんが、衰弱した体に産卵する力が残っていないのは明らかです。イチかバチか、「卵を摘出してみよう!」と思いました。

でも「はて?どうやって取り出したらいいんだろう?」カメのお腹には固い甲らがあります。「こんなの大学では習わなかったな。」教えてくれる人も居ないし、いろんな本等を参考にしながら手術しました。まず全身麻酔を掛けて、歯医者さんの歯を削る機械で甲らに四角い穴を開けます。その部分の肉や膜をメスで切って、卵の入った袋を引っ張り出しました。あとは袋から卵を出して、切ったところを縫えばおしまいです。固い甲らは、金属製のワイヤーで縫い合わせました。動物園では、いろんな動物がいろんな病気に掛かるので、毎日試行錯誤の連続です。

飼育日誌より

- 10/12 ☀ トナカイ、♂1頭搬入。
ビーバー、2003生トキオ搬入。
カビバラ、2001生タクマ搬入。
- 10/19 ☀ レッサーパンダ、仔、初めて外の展示場にだす。
チンパンジー、ボンタ♂、広報課の取材でラグビーボールで遊ばせたが、ボールの中のゴムを食べてしまった。催吐剤を与えたが吐かなかった。
- 10/21 ☀ チンパンジー、ボンタ♂、便に大きなゴムが混ざっていた。
- 10/23 ☀ マントヒヒ、1仔出産。
- 10/26 ☀ コモンマーモセット、初育児行動ペア、仔親と同じえさを口にするようになった(39日令)。
ハチクマ、東京大学のハチクマ生態調査協力のため、採血と羽などの採材を行う。
- 10/27 ☀ インターンシップで秋田商業高校生、飼育体験。
- 10/28 ☀ レッサーパンダ、午後より、健健♂、花♀、ナナ♀、仔2頭の計5頭を同居させる。特に問題なし。
- 10/29 ☀ レッサーパンダ、本日も同居させたが、花♀が尾短の仔に飛びかかったため、花を室内展示とする。
- 11/3 ☀ クイズ・おねがいヒントマン実施。
- 11/7 ☀ マントヒヒ、仔、♂に咬まれ死亡する。
- 11/8 ☀ カナダカマアラシ、仔、皮膚真菌(カビ)症が悪化したため入院棟で入院。
- 11/9 ☀ サル山、野生ザル出沒。
- 11/11 ☀ ポニー、マーブル♀、右前肢の蹄が割れたため緊急削蹄。
- 11/12 ☀ マーコール、ホロホロチョウ川崎市夢見ヶ崎動物公園から午前中搬入。
- 11/16 ☀ ホシガメ、全頭を病院にて、温水浴、各種測定、レントゲン検査、検便等を行う。No.4に卵6個が確認された。
- 11/17 ☀ ツル舎、リフォーム事業がはじまるため、ツル舎のツル5種をシュバシコウ舎、入院棟へ移動。
- 11/18 ☀ ウシ、オリビア、発情?(粘膜性出血発見)
- 11/20 ☀ ホシガメ、No.4、状態がよくないため病院へ入院。
- 11/22 ☀ レッサーパンダ、5頭を同居させる。花♀が陸みに噛みついたとのお客様からの連絡。中止にする。
- 11/23 ☀ さよなら感謝祭 過去最高の6,000人入園。
- 11/26 ☀ ホシガメ、No.9 ♀死亡。
シュバシコウ、仔、左翼から出血。羽軸が折れていた。
- 11/28 ☀ コウノトリ、♂、フェンスに衝突。上嘴骨折、下嘴曲がる。
- 11/30 ☀ フライングケージ、コクチョウ、ネットにひっかかっていた。はずして一時病院収容。
ニホンザル、野生ザルがサル山内に落ち、群れに襲われる。保護し、病院にて治療。サル山内寝室に収容。
- 12/3 ☀ ハワイガン、埼玉こども動物自然公園より6羽搬入。
エリマキキツネザル、1頭川崎市夢見ヶ崎動物公園へ搬入。
コモンマーモセット、♂1頭♀2頭も同園へ搬入。他仔2頭動物業者へ搬入。
- 12/5 ☀ ビーバー、02'生まれの仔、闘争によるだけが元で溺死。
- 12/6 ☀ サル山、野生ザル、自然保護課経由で奥山に放獣。
- 12/10 ☀ タンチョウ、同室にヤマドリを同居させる。
- 12/13 ☀ フンボルトペンギン、1羽目、孵化確認(知多22・左赤右白2ペア)。

飼育動物数

| | 種類 | 点数 |
|-----|-----|-----|
| 哺乳類 | 59 | 295 |
| 鳥類 | 57 | 214 |
| 爬虫類 | 10 | 33 |
| 両性類 | 0 | 0 |
| 魚類 | 4 | 31 |
| 合計 | 130 | 573 |

(平成16年12月末現在)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。久しぶりに大雪の1月となりましたね。私は、今更ながら『やっぱり秋田は雪国なんだ』と再確認! ?っと言うのも、コミュニケーションのバックナンバー1992年1月号に「またしても雪の全くない1月」という記載がありました。今思うとそれ以降も雪の少ない1月が多く、いつの間にか特記するほど珍しい事ではなくなり、更には「地球温暖化」という一言で自己解決していた気がします。

そんな「秋田らしい冬」となった今年から、昨年まで1日のみの開催だった「冬の特別開園」を1月・2月それぞれ3日ずつの計6日間に拡大。1月開催の3日間は、時折吹雪となる厳しい寒さとなったものの、計3,089人のお客様にご来園いただき、素晴らしい形で2005年のスタートを切ることができました。

— 柴田典弘 —